



多摩市立瓜生小学校
瓜生小だより



令和6年度第3号
令和6年5月31日

「通じ合う心」「伝える努力」

校長 池田 泰章

校庭の木々の葉が鮮やかな緑に包まれ、日ごとに暑さが増してくる季節を迎えております。保護者の皆様、地域の皆様には、日頃からのご支援・ご協力に心より感謝いたします。

さて、子供の人格形成にとって、周囲の人間との「よりよい関わり」が、大変重要な要素となっております。「以心伝心」（無言のうちに心が通じ合う）「あうんの呼吸」（全てにおいて心が通じ合う）という言葉があります。言葉の響きからも、二人の間に温かい心の通い合いが想像されます。互いに相手が何を欲しているのかを考え、かゆいところに手が届くように気遣ったり、困っていることを察して手を差しのべたりするような人間関係を築くことができれば、誰もが安心して生活することができます。そして、素直に自己表現をすることもできるに違いありません。



瓜生太鼓【6年生】in ケアプラザたま

しかし、慌ただしく時間が過ぎていく昨今、気遣うことを他者に求めるだけでは、人間関係を良好にすることはできないように思います。自ら理解してもらえようとする努力をする必要があるのではないのでしょうか。自分のことを分かってほしいと思うときには、分かってもらえようとする努力をすることが必要です。そして、どのような行動をとれば望ましい人間関係を築くことができるのかをしっかりと考え、行動し、互いに理解し合うことが大切だと考えます。

「通じ合う心」を大切にするとともに「伝える努力」をしながら、温かい人間関係を築いていく子供たちを育てていきたいと思っています。

新年度が始まって2カ月が過ぎ、暑さに慣れていない中、子供たちは疲れている様子もうかがえます。疲れをとるには十分な睡眠を取ることが大切です。子供たちが学校に来て、しっかりと勉強ができる、運動ができる、生活ができる、という状態で家から出られるよう、睡眠時間を大切にしたいと思っています。

子供たちの心身の健やかな成長のために、保護者の皆様、地域の皆様のご協力、ご支援をどうぞよろしく申し上げます。